

母なるものとの共生の大切さ、ともに生きる意味を、ペネロペタが語り合った



母なるものとの共生の大切さ、ともに生きる意味を、ペネロペタが語り合った

浄土宗の宗祖・法然上人(1133~1212年)が往生されてから来年で800年。その大遠忌を迎えるにあたり記念フォーラム「母なるものとの共生〜法然上人の風土〜」が、岡山市の山陽新聞社さん太ホールで開かれた。第1部の「ともいきがたり」では東京経済大学名誉教授 日本文学・女性史の石丸晶子氏が「法然上人と母」と題して講演。第2部の「ともいき談義」では、就実大学名誉教授の柴田氏と立教大学教授の阿部珠理氏、浄土宗僧侶の吉原知仙氏、佛教大学教授の高田公理氏が「母なるものとの共生」をテーマに、法然上人生誕の地・岡山の歴史風土や父母との関係を見つめながら共生について語り合った。(文中敬称略)

田一氏と立教大学教授の阿部珠理氏、浄土宗僧侶の吉原知仙氏、佛教大学教授の高田公理氏が「母なるものとの共生」をテーマに、法然上人生誕の地・岡山の歴史風土や父母との関係を見つめながら共生について語り合った。(文中敬称略)

法然上人800年大遠忌記念フォーラム 母なるものとの共生〜法然上人の風土〜

企画・制作/山陽新聞社広告本部

笑顔や心遣い豊かな社会に

法然上人の母上・秦氏についてはほとんど知られていません。伝記では、母上は非常に温和で、信仰深い女性であったこと。また法然上人が比叡山に15歳で登られて、数カ月後に亡くなったことが分るだけ。この最後の数カ月、母上は比叡山の方へ向かって、子どもを託し、毎日合掌しておられたこと。法然上人は9歳で出家し、比叡山に登ってからも43歳まで修行して仏の慈悲とは何かについて悩み続けます。そして唐の善導大師の著書によって黎明を迎えます。仏の慈悲は万民に向かう。そして法然上人はとりわけ社会的弱者に温かい目を注がれ、遊女や漁民、狷師などに対して温かな言葉をかけられました。その多くが今に伝えられています。

第1部 ともいきがたり 法然上人と母

岡山の生活 人格培う
このような人格を培ったのは岡山の風土です。法然上人の人格の基礎には、隣近所の子とちと一緒になって遊んだ日常、父母から愛されたという体験があると思います。その体験が比叡山での長い苦悩に耐え抜く力になったのだと思います。時代は変わっても子どもにとって愛の受け皿は変わらないうえ、言葉で伝えるだけでなく、頭をなでたり、抱きしめて「あなたが大切だ」と伝えたい。法然上人もそうやっていたに違いありません。



東京経済大学名誉教授(日本文学・女性史) 石丸 晶子氏

第2部 ともいき談義 母なるものとの共生
就実大学名誉教授(日本近世史) 柴田 一氏
立教大学教授(アメリカ先住民研究) 阿部 珠理氏

浄土宗僧侶 吉原 知仙氏
東京経済大学名誉教授(日本文学・女性史) 石丸 晶子氏
浄土宗僧侶 高田 公理氏



高田 法然上人と岡山の歴史風土の関係、あるいは法然上人とお父さんお母さんの関係を見つめながら、母なるものとの共生関係について考えていきたいと思えます。
柴田 法然上人は父親の遺言で、父を殺した人間に敵討ちするのをやめ、仏門に入ります。受けた恨みを仏門に帰依することと清めたというのが第一に素晴らしい。
第二は、仏の救いは仏様のほうで、手をさしのべて救おうとしてくださっているのだから、私たちが、そちらに目を向け、南無阿彌陀仏と唱えるだけでいいと説き、難しい仏教をやさしい仏教にした点です。
法然上人が子どものころ愛されて育ったはずと石丸さんはおっしゃいましたが、私もそうだと思います。赤ん坊はお乳を飲むとき、お母さんの目を見ています。お母さんは赤ん坊の目を見ます。お乳とお母さんの愛情との共生がでなくなると、不健全な生活に陥っています。米国のでもっと貧しく、不健康な民族といわれるほどです。
しかし、非常につながりの強い社会をつくっています。日本では「無縁社会」が問題化してはいますが、インディアン社会は貧しく病気がちながらも人がつながり、隣人のことを心配するつながりがあります。これが共生の思想を具現化していることなるとも感じました。
吉原 私の主人は住職でしたが、大学で教鞭もつとめていて、だんだん寺を不在にする日が多

愛情たっぷり教育を 縁大切に共生思想 離れても心一つに合掌
柴田氏 阿部氏 吉原氏 高田氏

高田 インディアンたちはどのように社会的弱者に対応しているのでしょうか。
阿部 社会的弱者を社会がどう扱うかは文明のレベルをあらわすと思います。今の日本は身体障害者や精神障害者、老人を排除していく社会です。そして、インディアンは社会は対極で包摂していく社会です。
阿部 自分の人生を振り返り、縁によって自分の人生がつけられてきたと思います。インディアン研究を始めたのも、芥川賞作家の中上健次氏と知り合いになったのがきっかけで、それまでは他の社会学をやっていたんですけど、自分の研究に戻ろうと思ったんです。
柴田 子どものときに決定的に愛されるか柳のようにしなやかな人になります。法然上人もそうだったでしょう。歴史が混乱状態に陥ったときに宗教家が現れ、みんなの悩みを聞くカウンセラーになるんです。逆境の中を乗り越えていく力を持つ人、そういって法然上人のような人が今こそ求められているのではないのでしょうか。
石丸 共生やつながりの社会は、まず一番身近なところから始めるものだと思います。近所ですぐに声を掛け合う。それが人と人とのつながりの基本なのです。一人一人が小さな心配りを実行することで家族の心が開かれ、閉鎖社会といわれる今の世の中も、やがて開かれた社会になっていくのではないのでしょうか。
高田 縁とは情報の回路ではないでしょうか。縁が情報回路でつながり、やがて宗教の力がつながり、再生の鍵ではないのでしょうか。
阿部 私は子どものころよく遊んだお堂を地元の友だちと直したのですが、そのお祝いの席で友だちの呼びかけでみんな子どものころの言葉に戻り、昔に戻ったような親しみを感しました。これが地域づくりかと思えました。
阿部 残念ながら日本の社会は高度経済成長以降、役に立つか立たないか、そういう目で人間を見るようになりま



たかだ・まさとし 1944年、京都市生まれ。京都大学理学部卒業。シンクタンク主任研究員、武庫川女子大学教授を経て2008年より現職。学術博士。専門は社会学・文明学・観光学。著書に「語り合うにつばんの知恵」「自動車と人間の百年史」「流行、の社会学」、編纂に「嗜好品の文化人類学」など。
よしはら・ちせん 1964年生まれ。浄土宗山梨教区寺院婦人会員。浄土門主・総本山知恩院第85世門跡藤井實徳大僧正は祖父。甲斐善光寺第71世住職であった吉原浩人師(現早稲田大学教授)に嫁ぎ、2004年、浄土宗僧侶となる。現在は、実父の善光寺第72世住職藤井明雄師を副住職として補佐する。

高田 インディアンたちはどのように社会的弱者に対応しているのでしょうか。
阿部 社会的弱者を社会がどう扱うかは文明のレベルをあらわすと思います。今の日本は身体障害者や精神障害者、老人を排除していく社会です。そして、インディアンは社会は対極で包摂していく社会です。
阿部 自分の人生を振り返り、縁によって自分の人生がつけられてきたと思います。インディアン研究を始めたのも、芥川賞作家の中上健次氏と知り合いになったのがきっかけで、それまでは他の社会学をやっていたんですけど、自分の研究に戻ろうと思ったんです。
柴田 子どものときに決定的に愛されるか柳のようにしなやかな人になります。法然上人もそうだったでしょう。歴史が混乱状態に陥ったときに宗教家が現れ、みんなの悩みを聞くカウンセラーになるんです。逆境の中を乗り越えていく力を持つ人、そういって法然上人のような人が今こそ求められているのではないのでしょうか。
石丸 共生やつながりの社会は、まず一番身近なところから始めるものだと思います。近所ですぐに声を掛け合う。それが人と人とのつながりの基本なのです。一人一人が小さな心配りを実行することで家族の心が開かれ、閉鎖社会といわれる今の世の中も、やがて開かれた社会になっていくのではないのでしょうか。
高田 縁とは情報の回路ではないでしょうか。縁が情報回路でつながり、やがて宗教の力がつながり、再生の鍵ではないのでしょうか。
阿部 私は子どものころよく遊んだお堂を地元の友だちと直したのですが、そのお祝いの席で友だちの呼びかけでみんな子どものころの言葉に戻り、昔に戻ったような親しみを感しました。これが地域づくりかと思えました。
阿部 残念ながら日本の社会は高度経済成長以降、役に立つか立たないか、そういう目で人間を見るようになりま

浄土宗21世紀劈頭宣言
愚者の自覚を
家庭にみ仏の光を
社会に慈しみを
世界に共生を
【総本山・大本山と800年大遠忌特別記念法要】
総本山 知恩院(京 都) 平成23年3月27日~4月25日
大本山 増上寺(東 京) 平成23年4月1日~9日
大本山 金戒光明寺(京 都) 平成23年4月1日~5日
大本山 知恩寺(京 都) 平成23年4月20日~25日
大本山 清浄華院(京 都) 平成23年4月9日~13日
大本山 善導寺(久留米) 平成25年4月12日~16日
大本山 光明寺(鎌 倉) 平成23年7月3日~7日
大本山 善光寺大本願(長 野) 平成20年5月20日~22日(終了)

平成23年に、宗祖法然上人の800年大遠忌を迎えます
法然上人の心とともに、新しい「共生文化」を創造しましょう
法然共生
宗祖法然上人800年大遠忌
浄土宗 Jodo Shu Buddhist Denomination
http://www.jodo.or.jp

大遠忌記念事業トピックス
いよいよ法然上人800年大遠忌
法然上人像が阿彌陀如来像と対面
800年の時空をこえ知恩院で
来る平成23年1月25日は、浄土宗の宗祖法然上人800回めの御命日です。総本山知恩院では、上人1周忌を機に造立された阿彌陀如来像が、800年の時空をこえて法然上人像と対面します。また同日、大本山増上寺からは、大遠忌を記念する念仏行脚が立派。約40日をかけて知恩院へと向かいます。
法然上人八百年忌 特別展覧会 法然 生涯と美術
史上初の大型展覧会を京都で開催
【会期】平成23年3月26日(土)~5月8日(日)
※9時半~18時(金曜日は20時まで) ※月曜日休館(5月2日を除く)
【会場】京都国立博物館(京都市東山区)
電話 075-525-2473(テレホンサービス)
URL http://www.kyohaku.go.jp/
【観覧料】一般1,200円・大高生700円・小学生300円
【主催】京都国立博物館 NHK京都放送局 NHKプラネット近畿 京都新聞社
法然上人の伝記の集大成ともいえる国宝「法然上人像」を中心に、上記の阿彌陀如来像をはじめ、ゆかりの品を一堂に紹介する史上初の大型展覧会です。